



中名田っ子

小浜市立中名田小学校
令和元年6月20日
6月号

「中名田はいいところ」

昨年度2月から中名田全校児童によるふるさとの歌を作成中です。昨年度の全校児童33人が歌詞になるフレーズを出し合い、昨年度の4・5年生がみんなの思いを紡ぎ「中名田はいいところ」の歌詞が完成しました。その後、子どもたちのメロディーをもとに、やまなみ保育園園長の大森先生に編曲をお願いして、「中名田はいいところ」というすばらしい歌が完成しました。6月12日には、CDジャケット表面の写真撮影を下田の小堂達也さんをお願いをしてドローン撮影を行いました。ジャケット裏面は5年生が中心となってイラストを作成中です。このCD作成には、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わっても、また、中名田小学校の子どもたちが将来この地を離れることになっても、ふるさとを思った時に「ふるさと中名田はいいところだ」「楽しい思い出がたくさんある」「かけがえのない時間をこの中名田で過ごすことができた」などの思いが心に残り、ふるさと中名田が心のよりどころとなるような思いが込められています。歌詞の4番に、「この川はどこまでいくのだろう 海へと続く川 この道はどこまでいくのだろう 未来へと続く道」というフレーズがあります。中名田の子どもたちは、学校前を走る道、その道に沿って流れる田村川が海や大きな世界に繋がるように、中名田小学校から中学校、そして更に大きな社会へと子どもたちは進んでいきます。4番の歌詞には、ふるさと中名田から未来に飛び立つ子どもたちの思いや願いが込められています。作詞・作曲からジャケット制作に至るまで子どもたちの手で作り上げることで、ふるさと中名田への思いが一層膨らむものと思っています。この歌は、子どもたちにとって特別な歌になってほしいと願っています。



ご意見・ご感想をお聞かせください。

保護者の声

年

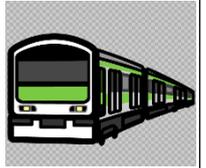
組

〈キリトリセン〉

保護者氏名

遠足

六月十四日（金）に三方方面に遠足に出かけました。今年は、公共交通機関を使い、海に關



する学習を盛り込んだ遠足を実施しました。公共交通機関を利用することで、子どもたちは、公共の場でのマナーや切符の買い方など社会のマナーやルールを学ぶことができました。福井県は一世帯当たりの車の普及台数が全国でもトップクラスの県です。車で移動することが多く、電車を使って移動をする機会は多くありません。駅員さんに「小浜駅まで子ども一枚」と声をかけ、お金を出して切符を買い、その切符をなくさないように持っている体験は貴重なものになったと思います。また、高学年が見学をした縄文博物館や年縞博物館は大昔にタイムスリップしたかのような不思議な感じになると同時に昔と今を比較して考えるいい時間になりました。

遠足全般を振り返ると、高学年の児童が低学年の児童に、安全面や集合時間などについて頻繁に声をかけていた姿が印象に残ります。高学年のすばらしいお手本の姿に接することで低学年児童も育ち、自然に人への配慮が出来る人間に育つのだと思います。そして、これが中名田小学校のいいところだと痛感しました。



若狭牛の入牧式に参加

六月十八日（火）若狭牛の入牧式に全校児童が参加をしました。この事業は、遊休耕地解消の取り組みとして行われたものです。子どもたちは、めったに見ることが出来ない牛を目の当りにして、「こんなに大きいかった」と感想を口にしてみました。今後は、この活動を命の大切さや中名田地区の未来を考える学習に繋げていきたいと考えています。

*牛の放牧地には電柵が設置されています。子どもだけで放牧地に行くことのないようにご家庭でもお話しください。

